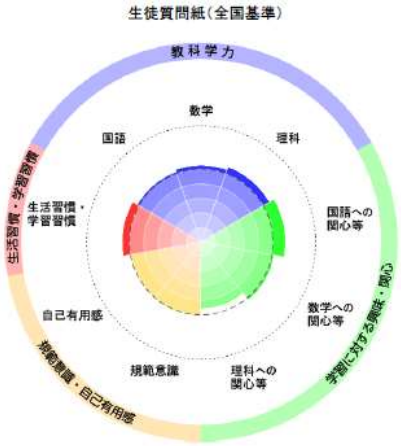
令和４年度　全国学力・学習状況調査

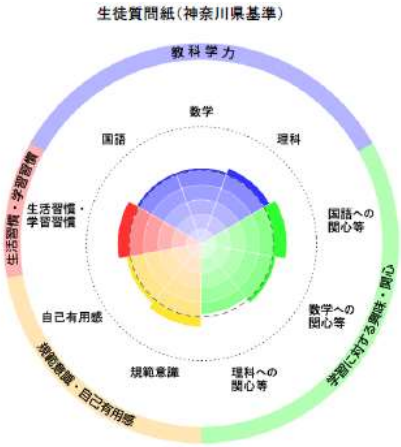
飯島中学校の結果と分析

１．平均正答率（%）

	国語	数学	理科
横浜市立飯島中学校	69	53	52
神奈川県（公立）	69	53	50
全　　国（公立）	69	51.4	49.3

２．概要





３．分析

①学力について

国語	「知識・技能」の観点の出題については、神奈川県・全国の平均正答率と同等だった。「思考・判断・表現」の観点についても平均正答率は同等だったが、「論理の展開などに注意して聞く」趣旨の設問の正答率が、神奈川県の平均より約 10 ポイント低かった。「話す・聞く・読む・書く」のそれぞれの場面で、論理の展開や文脈上の意味を捉える力を伸ばしていきたい。
数学	全体の正答率について、全国平均と比較して 1.7%上回っており、神奈川県の平均値という結果だった。領域では「関数」が全国平均、県平均を下回っており、課題が見受けられた。必要な情報を適切に読み取ったり、情報を視覚化したりする活動を意識しながら、数学的な考え方をさらに伸ばしていきたい。
理科	「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらの観点とも、県・全国の平均正答率をやや上回った。特に、「おもりにはたらく力の作図」を十分に理解している。（全国より＋51.4 ポイント）また、気象観測に関する問題の正当率が高く（全国より＋6.4 ポイント）、授業で観測を行った成果だと思われる。

②規範意識、自己有用感、生活・学習習慣について

規範意識 自己有用感	「自分によいところがある」と肯定的な回答をした生徒の割合が、83.8%にのぼった（全国より＋5.3 ポイント）。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した生徒が全国より約 10 ポイント高かった。授業のなかで自分の考えを深め、学級やグループで話し合う活動を大切にして、長年の課題である生徒の自己肯定感や自己有用感を継続的に高めていきたい。
生活習慣 学習習慣	「学校の授業時間以外に読書を全くしない」と答えた生徒の割合が、58.5%にのぼっている（全国の平均は 39%）。平日、２時間以上、テレビゲームをして過ごす生徒の割合が、65%にのぼっている（全国の平均は 50%）。来年度以降も、生徒の読書活動推進の取組を工夫して行っていきたい。